

「令和2年度高知県献血推進計画（案）」書面決議の結果について

〈承認の可否〉

- ・委員全員の承認を得た

〈委員からの意見〉

- ・献血量の減少傾向が続く中、なぜ目標量がピーク時（平成22年）以降で最も高くなっているのか。今回の計画に含まれた施策だけでは、目標量を達成できるとは思えない。健康な方であれば400mL献血の制限回数を緩和しても問題ないとする。
- ・高知県だけで行える施策には限界があると思うが、例えば「龍馬パスポート」の「体験スタンプ」の対象とするなど、効果のある取り組みがあるのではないかと。

〈回答（高知県赤十字血液センター）〉

- ・今年度の目標量が平成22年度以降で最も高く設定された理由は、血液の成分である血漿を原料として造られる血漿分画製剤の中で、近年、免疫グロブリン製剤の必要量が急激に増加しているためである。

このため、昨年度の目標量11,902Lに対し令和2年度目標量は12,952Lと、献血者数にして約1,800人増加した計画となっている。全血献血（200mL・400mL）から得られる血液量は昨年度目標より46L少なくなっているが、成分献血の目標量は1,096Lと大幅に増加しているのはこのためである。

- ・令和2年度に割当てられた目標の達成に向けての確保方策として、移動採血と固定施設（献血ルーム）の両施設で新規献血者の開拓を積極的に行い、其々の役割分担を明確にして献血受入強化を図っていく。

移動採血では400mL献血の推進と1稼働目標の達成、固定施設では、成分献血者への複数回の推進と併せ、400mL献血から成分献血へのシフト、また、年間の採血基準で400mL献血と成分献血の両方にご協力をいただけるように働きかけていく。

- ・献血量を確保するため、県独自の取り組みとしては、高知県が実施している健康増進を目的とした「高知家健康パスポート」事業に参加しており、献血者に対し、ヘルシーポイントシールをお渡しすることで、健康管理と複数回の献血推進にご協力いただくよう啓発している。